

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度第2回相模原市食育推進委員会				
事務局 (担当課)		健康福祉局保健衛生部健康増進課 内線(5623)				
開催日時		令和4年12月13日(火)午後6時30分～8時20分				
開催場所		ウェルネスさがみはらA館3階 集団指導室				
出席者	委員	16人(別紙のとおり)				
	その他	3人(農政課長、学校教育課長、学校給食課長)				
	事務局	6人(保健衛生部長、健康増進課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		委嘱式 1 あいさつ 2 会長、副会長選出 3 報告 (1)「第3次相模原市食育推進計画」の進行管理について (2)次期計画の策定について (3)健康づくりの推進に係る条例について 4 その他 5 閉会				

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 あいさつ

### 2 会長、副会長選出

(以下、堤会長による進行)

本委員会の公開について委員の承認を得た後、出席者が定足数に達していることを確認し、議題が進行された。

### 3 報告

#### (1)「第3次相模原市食育推進計画」の進行管理について

事務局より、資料1、資料2、資料3、参考資料3に沿って第3次相模原市食育推進計画の進行管理について説明を行った。

#### 【委員からの意見】

(今委員) SNSの活用とは、サガピーとかガミティの動画を見たことがあるが、そういったものを指すのか。また、今まで発信したSNSの一覧はあるか。

(事務局) YouTubeへの動画の掲載やフェイスブックへの記事投稿、市ホームページでの情報提供などを含め、SNSの活用とさせていただいている。動画などを作った際はそのことを報道提供や市のホームページなどで周知しているが、それを一覧にしたものについてはまとめたものをお示しできるように準備させていただければと思う。

(堤会長) どのように取り組んでいるかということを示していただけるとありがたい。また、ホームページや報道などで周知しているとのことだが、その周知の方法でどれだけ伝わっているか、周知する方法をもう少し工夫されたらよいかと思う。

(落合委員) 食品ロスを軽減するために取り組んでいる市民の割合が80%の目標に対して評価は86.6%ということで非常に高い。私たち農協も、窓口や店内にフードロスのためのコーナーを設けているが、持ち込まれる数が多くて、皆さんすごく関心があるのだなということを感じている。この数値に納得できると感心したので、感想として伝えさせていただく。また、最近ではスーパーやコンビニなどで、売れ残りをそのまま廃棄しないで、安く取りに来てもらうというようなことを試験的に始めているところもすごく増えているようなので、そういうところにも取り組んでいくと、廃棄するものが減るのではないかと思う。

(堤会長) 私もテレビで、ある団体が夕方になるとパン屋さんを回って残りそうなものを大変安い値段で買い取って、それを夜、お店を設けて帰る人の道すがらに売るとそれが全部売れてしまうというようなことを知った。システムを作るまでは大変と思うが、市の方でもそのような取り組みを今後進めていただけたら食品ロスが減るのではないかと思った。

(今委員) 地場農産物の普及啓発等では、子どもの給食だよりなどでさがみグリーンや津久井大豆などを見かけるが、買おうと思っても見かけないので、普及というのはどういう状態を目指しているのか、教えていただけるとありがたい。

(事務局) 食生活改善推進員という、各地域で公民館単位で食育を推進していただいている方がいる。そういう方が、公民館で食育のイベントの一環として、まさに津久井産大豆を使った献立を地域の方にお示しをしたり、どこで買えるのかまでは踏み込んでいないが、

相模原市にも特産物があって、そういうものを使った料理をぜひ地域で継承していこうというような取り組みをさせていただいている。

(唐澤委員) 津久井在来大豆というのは、もともとが相模湖の千木良地区を原産とする大豆である。在来種ということで、大豆の種子生産を行い、その種子で様々な農家の方に作っていただいて普及を進めようという取り組みを行っている。津久井管内で農園活動をしている学校があり、そこで大豆を作ってもらえるような活動もしている。あとは、農産物直売所、あぐりんずつくいという直売所があるが、そこで大豆をお買い求めいただくこともでき、テレビでも紹介されている。そういった形で普及活動を行っている。

(今委員) 生産量は増えていっているのか。

(唐澤委員) 増えてきている。

(今委員) どんどん目に入ってきて、買えるようになるといいと思う。給食のことで子供と話をするが、千葉とか埼玉とかの野菜のほか、市のものもあったりするが、さがみグリーンは特に見ないし、大豆は時々見かけるが、そういうものが生活にも入ってくると、よりいいかなと思った。

(学校給食課長) さがみグリーンについては、作付量のほぼ全量を学校給食の方で使わせていただいていると聞いている。軟弱野菜というところもあり、現段階ではまだ市場には出回っていない状況とも聞いている。ただ、給食で使わせていただく際には、給食日より等で、地場野菜であるさがみグリーンを使っているということの子供たちに情報提供している。

(堤会長) 報告1について、事務局から他に何かあるか。

(事務局) 農産物、フードロス、SNS等、様々なご意見を賜った。今後、次期計画の検討に入るので、皆様からいただいたご意見を参考に検討を進めて参りたい。

(2) 次期計画の策定について

(3) 健康づくりの推進に係る条例について

事務局より、資料4、資料5-1、資料5-2に沿って次期計画の策定及び健康づくりの推進に係る条例について説明を行った。

【委員からの意見】

(落合委員) 健康というどうしても体の健康となるが、条例の中に心の健康というのが入っているのが素晴らしいと思う。あと、健康と一口に言うが、ある程度高齢になるといろんな病気が出てくる、ではその人は健康じゃないのかと。JAグループでは、自分のことを自分でできる、いろんな病気があってもいいが、寝たきりじゃなく自分のことを自分でできる寿命を延ばそうということで、健康寿命100歳プロジェクト、100歳まで自分のことを自分でできるようにするという運動をしている。そのために、ちゃんと検診をしたり運動をしたり、楽しく笑ったり、料理を幼児教室でやったりと、そういう活動をしており、何かそういう具体的なこと、健康って何かっていうところを少し入れるといいと思った。

(堤会長) 私も条例作りに関わらせていただいたが、健康は全く病気がない人のことばかりではないという話も出て、その辺りも考慮された条例になっていると思う。委員から紹介のあった健康寿命100歳プロジェクトのようなことがいろいろなところで進んでいけばいいし、それが食育の推進や健康寿命を長くしていくことに繋がっていくのでは

ないかと思っている。

(田中委員) 確認だが、この新しい健康づくりの推進に係る条例を基にして、食育推進の内容も計画を立てていくという、そういうことか。

(事務局) 現在の保健医療計画、健康プラン 21 には、健康増進法に基づく市町村健康増進計画という位置付けがある。この計画の次期計画に、条例に定める計画としての位置付けを持たせ、健康増進計画や食育推進計画、こういった位置付けもしっかり持たせた計画として策定するということを想定している。

(田中委員) ということは、この健康づくり推進の条例を基にして、食育推進基本計画の内容を網羅していくということか。

(事務局) 条例では健康を支える食育というものが基本的施策の中に位置付けられており、その食育の部分について、具体的な施策や目標等を計画の方で決めていくということである。条例が大きな枠組みを決めて具体的な施策は計画で謳っていく。このような関係になるかと思っている。

(田中委員) そうすると、食育には健康に関わるものがたくさんあるが、生産に関わること、例えば SDGs の話や食料自給率の関係、または食への感謝の念といったような部分も、この計画の中で読み込むということになるのか。

(事務局) 健康づくり推進計画の中で食育を扱うことになるため、フードロスや自給率の向上、フードマイレージなど、直接的に健康とはあまり関わりがないと思われる部分も、健康と関係ないからこの計画では扱わないということではない。食育推進計画の位置付けもしっかり持たせたいと思っており、その部分も次期計画の中でしっかりと規定して参りたい。

(田中委員) そうであれば、基本的施策とか計画を立てる時のアクションプランの項目などに、市民の方々によく見えるような形で PR していった方が良いと思う。もう 1 点、基本的施策に身体活動及び運動に関する施策とあるが、身体活動の中には運動も含まれている。前は身体活動及び運動習慣をつけると書いてあったので良いかと思ったが、身体活動及び運動となると、この運動は何を指すのかと。マニアックな部分かもしれないが、身体活動がそういう意味も含んでいるということを確認にした方が良いと思う。

(事務局) 委員のおっしゃるとおりと思う。イメージとして、身体活動は、例えば家の中で家事だとか運動と意識しなくても動いていくもの、ただそれだとウォーキングのような運動はイメージできないということでこのような書きぶりにさせていただいている。まだあくまでも案であり、今後検討して参りたい。

(田中委員) そういう場合は生活活動というふうに使っている場合が多い。

(事務局) 承知した。法令部門の見解等も伺いながら、検討して参りたい。

様々なご意見を賜ったが、特に健康寿命 100 年の話については、この条例案の前文の中で健康寿命の延伸が非常に大切であるということを謳っており、既に実際に取り組んでいただいている事業者さんがいらっしゃるというのは、条例制定に当たり私どもとしても非常に心強いしありがたい。引き続きご協力をお願いしたいと思う。

#### 4 その他

##### 【委員からの意見】

(原田委員) 健康に関して、三つの委員会が有機的に結合して、さらに発展していくことをお祈

りする。今日の会議の中で、フードロスや食文化の問題、そういった部分をどう残していくのかは、今後三つの委員会を合わせるにあたっての課題にしていなければと思う。

(庄井委員) 計画の中に歯と口腔の健康づくりと具体的に出ていることがとても嬉しいが、歯科診療をしていて、歯と口腔の健康について知らない方もたくさんいると感じるので、いろいろな人にしっかり普及する方法を今後も考えていきたいと思う。

(二宮委員) 先ほど地場産野菜の話が出たが、学校ではかなり栄養士が頑張ってくれて地場産野菜を出したり、或いは相模原の食文化の継承に繋がるようなメニューを出したりしている。ただ、それだけで子供たちの食が変わるということはなく、その給食は子供たちにまいた種みたいなもので、それがどンドンどンドン広がって子供たちのよりよい健康づくりに繋がっていくことになるのだろうと思っている。

(堤会長) 私の知っている小学校では、給食で地場産野菜が出た子供たちが、総合的な学習で、どのような農産物が相模原にあるのだろうっていうことを調べて、ベジタペーなを紹介して、ポスターを書いたり、或いは津久井産在来大豆の栽培をして、それで味噌を作ろう、というような取り組みをしているところがあった。このように他の教育活動とうまく重なってくると子供たちの意識が変わってそれが大人になった時の健康づくりに繋がっていく部分がたくさんあると思う。学校教育の内容と重なる部分があるので、学校の中でどのように子供たちが学んで、それを将来の生活に結びつけていくのかというところが大事なのだと感じた。

(平本委員) 今日はどうもありがとうございました。

(佐藤委員) 三つの計画が一体化することで、食育で今まで取り組んできたこと、学校での教育だとか地場野菜の話が出ていたが、そういうことが薄れないように、三つが一体化したことでやってきたことが続かないようなことがないように進めていっていただきたい。また、健常者だけではなく障害を持った方にも楽しめたり分かるような、そういった取り組みを希望している。

(長瀬委員) 三つの委員会が一緒になるということで、食育ならではのものがちゃんと出せるようにしていただきたいと思う。食育というのは、子供から生きている間は必ず必要なものだと思うので、私の団体においても、皆さんとともにいろいろと貢献していきたいと思う。

(藤木委員) 健康づくりの推進に食育が関わる、この影響というのは直接口に入るものですから、とても大きいものだというふうに思っている。子供たちの口に入る食事、これを作るのは、やはり保護者、親や大人で、そういった保護者の皆さん、親の皆さんにもきちんと訴えていけるような食育の推進、そういったものを盛り込んでいければと思っている。

(樋口委員) 今日初めて参加させていただき、これから食育についてまずしっかりと勉強させていただき、相模原市のよりよい食育に役に立てるようにしていきたいと思う。

(西田委員) 健康と医療の計画に食育も一本化するということだが、温暖化だとか気候の問題、環境の問題、食品ロスのこと、残留農薬、有機野菜、地産地消などすべてのことが、健康で暮らすためにはやはり環境っていうことが大事だと思うので、そういったところも含めて話があったらいいと思う。勉強しながら、一市民としての意見となるが発言していきたいと思う。

(中村委員) 小学校給食を作っていた立場からお話しさせていただきたい。私が働いていた所は

1,000食以上提供する大きな小学校だったが、地場産や可能な限り国産のものということで、フルーツパンチの果物缶も、国産が入っていて私たちじゃ買えないよねっというものを、缶切りで開けて子供たちという形でやっていた。ある時、栄養教諭の先生が、一年生の生徒にとうもろこしの皮むきをさせて、そのあと給食の時間に一年生がとうもろこしの皮を剥いたというアナウンスが流れた。そのトウモロコシの喫食率がものすごく良くて、やはり子供たちに直接手に触れさせて、与えられた食事じゃなくて自分たちが少しでも携わって、今日のトウモロコシおいしかったと私達作業員に言ってくれた。私たちにも言葉が届いて、頑張って作ってよかったなと思った。そのようなことが家に帰ってご家族の方と話ができればいいが、そこで終わって家に帰ったら何も無い、親から聞かれて美味しかったよみたいな感じになってしまう。6年間の給食は私たちの心身を育てるのに一番で、小学校の給食が美味しかった懐かしかったと思う。小学校を卒業したらもう小学校の給食は食べられないので、学校給食の展示会を、アリオ橋本とかいろんなところでされていたのを私も何回か子供たちと見に行ったことがある。子供が今こういうのが人気なんだよ、私たちの時代とは違うねという話をしたが、回りを見渡すと小学生をお持ちのお子さん幼稚園のお子さんのご家族はちらほら。せっかく時間と手をかけて展示をされてるのに、年齢が上の方は素通りというのがもったいないと思った。コロナの中、イベントも難しいと思うが、今の小学生が一番人気なもの、そのメニューを市が開催する行事の中で提供する、費用や衛生的な部分とか乗り越えなければいけないところもたくさんあると思うが、そういうことも含めて考えていただければと思う。小学生のお子さんだけではなく、私たちも、今こういうのが一番なんだね私たちの時はこうだったんだよってというような、食育という形には当てはまらないかもしれないが、そういう食の会話に繋がれば嬉しいと思う。

(堤会長) 私も大学で栄養教諭の養成に関わっているが、まさに給食は食育の生きた教材であるということで、研究授業などでも給食の献立を取り上げることが大変多かった。ぜひ広く市民の方に給食のよさが伝わって、それをきっかけに、子どもから家庭へと、すべてのライフステージでの食育がますます進んでいくことを願っている。

5 閉会

以 上

## 令和4年度 第1回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏名	出欠
(一社)相模原市医師会	原 田 工	出
(公社)相模原市歯科医師会	庄井 香	出
学識経験者(相模女子大学)	堤 ちはる	出
学識経験者(東京家政学院大学)	田 中 弘 之	出
相模原市立小中学校長会	二 宮 昭 夫	出
(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会	平 本 大 輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	江 藤 潤 子	出
相模原市栄養士会	佐 藤 美登利	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長 瀬 嘉 子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤 木 総 宣	出
相模原市農業協同組合	落 合 幸 男	出
神奈川つくい農業協同組合	唐 澤 由紀生	出
相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会	樋 口 陽 平	出
相模原食品衛生協会	森 健 太 郎	欠
さがみはら消費者の会	西 田 玲 子	出
公募委員	北 島 みどり	欠
公募委員	今 美 和 子	出
公募委員	中 村 道 子	出